

共生の時代

みどりの地球を
みどりのままで

2021 11月
災害支援臨時号
カンパ金使途報告

■発行：一般社団法人グリーンコープ共同理事会
■編集：共生の時代・編集部
■〒812-8561
福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号
博多大博通ビルディング3階
TEL092(481)7923
FAX092(481)7876
<https://www.greencoop.or.jp/>

- 東日本大震災 (2011年3月発生) **グリーンコープが
継続している
8つの支援活動**
- 熊本地震 (2016年4月発生)
 - 九州北部豪雨災害 (2017年7月発生)
 - 西日本豪雨水害 (2018年7月発生)
 - 九州北部大雨災害 (2019年8月発生)
 - 台風19号災害 (2019年10月発生)
 - 令和2年7月豪雨災害 (2020年7月発生)
 - 2021年8月豪雨災害 (2021年8月発生)

被災地を思う

組合員のカンパ金が

グリーンコープの

支援活動を支えています

局地的な豪雨や大規模台風、地震などにより、日本各地で毎年のように大規模な自然災害が起こっています。今年8月にも西日本と東日本の広い範囲が長期間にわたる豪雨に見舞われました。

グリーンコープでは現在、東日本大震災をはじめ、8つの災害の支援活動に継続して取り組んでいます。発災直後の緊急支援に留まらず、再び地域が元気を取り戻せるように共に歩み続ける、その活動はグリーンコープ運動そのものです。

被災地への息の長い支援を可能にしているのが、組合員一人ひとりから寄せられるカンパ金です。グリーンコープの災害支援活動は、組合員が「自分のできることを」と思いを込めたカンパ金によって支えられています。



2016年5月 熊本地震の被災地での炊き出しの様子(グランメッセ熊本)

最も必要とするところに最も必要な支援を息長く届け続ける

被災した地域やそこに身を置く方々の状況は、時間の経過とともに刻々と変化していきます。

生命そのものが脅かされる発災直後の状況が一段落すると、避難所や仮設住宅など慣れない環境での暮らしが始まります。復旧がすすんで自宅に戻ることができた後も、一度絶たれた地域のつながりを結び直すのは容易ではありません。

グリーンコープは、被災された方一人ひとりの気持ちに寄り添い、その時々何かが求められているのかを知り、知恵を寄せ合って自分たちができることを考え、地域と連携しながら支援を続けます。

一人ひとりの思いが支援を継続する力に

長期にわたる支援活動を可能にしているのが、グリーンコープの組織力です。組合員、ワーカーズ、職員など、グリーンコープには豊富な人



2016年10月鳥取県中部地震での炊き出しの様子
※鳥取県中部地震の支援活動は終了しました

※掲載している写真の多くは、新型コロナウイルス感染症拡大以前に撮影しました。

材があり、提供できる物資もありません。そして、組合員の被災された方々を思う心とカンパ金が大きな力となり、支援活動を後押しします。

災害が発生するたびに、本当に多くの組合員が自分に引き寄せ、被災された方々のために「何か自分のできることで力になりたい」と、カンパの呼びかけに応じています。組合員や取引先などから届けられるカンパ金は、継続している8つの災害支援活動だけでも総額1億2千万円以上に上り、その額は、グリーンコープへ向けられた信頼の証とも言えます。

今号では、現在継続している8つの災害支援活動について、復興に向けて変化していく被災地や支援の状況とともに、組合員から届けられるカンパ金が現場でどのように活用されているかを伝えます。

グリーンコープの災害支援活動は、時間の経過とともに変化する被災地の状況に対応しながら、大きく3つの段階ですすみます。

生命を守る

発災直後に何よりも優先されるのは「生命を守るための緊急支援」です。一刻も早く被災地に駆けつけ必要な物資や食料を届ける、炊き出しを行うなど、大切な生命を守るために必要な支援に取り組みます。

つながらず 寄り添う

被災した方々は、避難所へ、そして仮設住宅やみなし仮設住宅へと、落ち着く間もなく移動を余儀なくされます。地域のつながりを絶たれることで孤立してしまう方も少なくありません。居場所や生きがいづくりのためのサロン活動、見守り活動など、「一人ひとりに寄り添う支援」が大切になります。

地域の再生

行政からの支援金や補助金が終了して仮設住宅も閉鎖されると、あたかも被災地が復興したかのようにならず、被災地に暮らす一人ひとりが安心して生活できるようなには程遠い状況にもかかわらず、支援の手や絆を断ち切れ、希望を失い孤独に苦しむ方も多くなります。

本当に支援が必要なのはここからです。だからこそ、グリーンコープは「誰もが安心して暮らせる地域」をめざして、買い物支援や地域の支援団体への協力など、息の長い支援に取り組みます。

東日本大震災

未曾有の大震災での支援活動の経験やつながりが、その後起こった災害の支援に活かされました

何よりもまず生命を守る

2011年3月11日、東北地方は最大震度7を観測する大地震に見舞われ、岩手県、宮城県、福島県を中心とした太平洋沿岸部を巨大な津波が襲いました。さらに、地震や津波の影響により発生した東京電力福島第一原発事故によって、多くの方が避難を余儀なくされました。

発災時、グリーンコープは、被災地の状況もまだ十分把握できない中、とにかく現地へ駆けつけようという思いで、3日後には、救援物資を積んだトラックを被災地まで走らせました。「緊急カンパ」と「緊急物資提供」を組合員に呼びかけ、多くのカンパ金と、わずか1週間で倉庫3カ所合わせて500坪分を借りるほどの救援物資が届けられました。

組合員や取引先から寄せられた多種多様な豊富な物資があったことで、現地の支援団体とつながることができ、ニーズに合った物資を必要とされる方々へ迅速に届けることができました。

連携することによって広がった支援活動

現地での出会いをきっかけに、農業や産業の復興支援や、福祉ワーカーによる福祉施設での後方支援や人材育成などへと活動の範囲も広がっていきました。

グリーンコープは支援の長期化を想定し、発災後から連携して支援活動を行っていた、NPO法人ホームレス支援全国ネットワーク、生活クラブ連合会とともに、2

011年11月に公益財団法人共生地域創造財団(設立当初は一般財団法人)以下、共生地域創造財団)を設立し、連携して支援に取り組んでいくことにしました。

一人ひとりに寄り添い見守っていく伴走型の支援

支援活動をする中で、被災しながらも支援が届きにくい在宅被災者の窮状が明らかになってきました。共生地域創造財団では、岩手県大船渡市の在宅被災者のもとを一軒一軒回り、物資の支援や安否確認、声かけなどを行いました。大船渡市での取り組みが評価され、市から在宅被災者やみなし仮設住宅入居者の見守り訪問支援の委託を受けることになりました。行政からの見守り訪問支援の委託は、岩手県大槌町、陸前高田市、宮城県石巻市にも広がりました。

また、一時的な支援では解決が困難な課題には、地域での支え合いが重要だと考え、地域の方々によるサロン活動などコミュニティづくりの支援にも取り組んでいます。

地域の再生に取り組む団体の支援を続けていきます

東日本大震災の発災から10年が経ち、一見すると復興がすすんでいるように見えます。しかし、今も自宅に戻れない、地域でのつながりが断たれてしまったなど、震災前の日常を取り戻せない方も多いのが現状です。被災された方々が元気を取り戻せるように、これからも支援が必要です。

東日本大震災復興支援募金 会計報告 (2021年7月20日現在) (単位:円)

カンパ金	
組合員カンパ	321,996,321
他団体カンパ	16,880,691
カンパ金 集計	338,877,012
支援費	
人件費	15,812,249
食材	12,955,775
物資	45,909,517
取り組み費	59,209,022
輸送費	10,897,388
施設・倉庫費	40,176,553
車両費	13,474,578
交通費	20,303,459
諸経費	6,713,843
財団立替分の清算	-126,955,273
計	98,497,111
共生地域創造財団へのカンパ	193,000,000
合計	291,497,111
残金	47,379,901

カンパ金の今後の使途

地域の再生に取り組む団体を支援していきます。また、共生地域創造財団から独立したスタッフが取り組む被災地での就労訓練、地域復興、居場所づくりのための事業を応援していきます。

延べ101人の福祉ワーカーズが、福祉施設での後方支援や、人材育成に携わりました。(宮城県)

生命を守る 寄り添う

被災地の福祉施設で介護に携わる人たちが疲弊している様子を知り、宮城県山元町と亘理町の福祉施設の支援に2011年7月から1年間入りました。支援に入った福祉施設の方々とは、現在も交流を続けています。

現地での福祉の担い手の育成と、就労支援につなげるため開催された「2級ホームヘルパー養成研修宮城講座」では、講義や実技の講師などを担いました。



現地での滞在費、交通費、「2級ホームヘルパー養成研修宮城講座」の実施にかかる費用などにカンパ金が活用されました。

一人ではできないこともグリーンコープみんなの力を合わせればできる

在宅福祉ワーカーズ・コレクティブきらめき 水摩 静香さん 後藤 美穂さん

支援に入った福祉施設のスタッフの方たちは、ご自身が被災された中で、ご利用者のケアをされていました。支援の現場では、表に出過ぎず寄り添うことを心がけ、ゴミ捨てや車いすの掃除、シーツ替えなどの後方支援を担いました。

組合員から寄せられたカンパ金があったから、グリーンコープの組織力を活かした支援をすることができました。そして、グリーンコープ運動を広げ、地域づくりをすすめてきたから、一人ではできないこともみんなの力を合わせてできました。共同購入申込書に「1」と書けばカンパができて、支援に参加できる。組合員であることで、みんなの力を集めて支援ができることを力強く思っています。

地域の再生のために頑張る方たちを応援しています!

つながる 寄り添う

福島ぽかぽかプロジェクト(福島県)

支援継続中

放射線量の高い場所が点在する地域に住む親子が、線量の低いところで週末に短期保養するプロジェクトです。

グリーンコープは、共生地域創造財団をとおり、牛乳や野菜、果物、米などの食材を提供しています。また、組合員が福島ぽかぽかプロジェクトのお母さんたちと交流も行っていきます。



保養に参加される子どもやお母さんたちへの食材の提供にカンパ金が活用されています。

地域の再生

一般社団法人 コミュニティスペース うみねこ(宮城県)

支援継続中

布ぞうり作りなどの手仕事やいちじく・唐がらしの栽培・カフェの運営などをおして、被災地域の高齢者や若者のコミュニティづくりをすすめ、生きがいと収入を生み出しています。



農機具や苗木の購入など、運営を継続するためにカンパ金が活用されています。

グリーンコープの食べものと出会い、グリーンコープの仲間へ

福島ぽかぽかプロジェクトに参加した時は、放射能のことを唯一気にせず、子どもを外で遊ばせることができます。普段は周りに気を遣って話せない、放射能についての心配事も話すことができます。

福島ぽかぽかプロジェクトでグリーンコープの食べものに出会い、安心・安全で放射能汚染のことなどを気にしないで食べられるグリーンコープの食べものを、日常生活の中で利用したいと思うようになりました。組合員の皆さんと交流を重ねていく中で、仲間になりたいという思いを強くしていきました。

グリーンコープ生協ふくしまの設立によって、グリーンコープの商品が暮らしの中にあることが当たり前になりました。本当にうれしく思っています。

グリーンコープ生協ふくしま 理事長 武田 直美さん 専務理事 押山 靖子さん

地域の再生

一般社団法人 葛力創造舎(福島県)

支援継続中

葛尾村では、地域の中に仕事をつくり、戻って来た人々が安心して暮らしていけるように、持続可能な仕組みづくりに取り組んでいます。

地域の皆さんが取り組む仕事に必要な設備の設置などにカンパ金が活用されています。



葛尾村での田植えには組合員も参加しています



**「役に立ててもらいたい」
組合員から託された善意に支えられて**

グリーンコープ生協ふくおか 理事長 三原 幸子さん

発災後すぐからずっと何か支援をしたい気持ちでいっぱいでした。炊き出しではメニューのバラエティ、時短、衛生面を考慮した1汁3菜の献立を毎週考えました。組合員やワーカーの有志が「自分にできることで何かしたい」という思いを持ち寄って、代わる代わるチームを組んで炊き出しを続けました。その食事を「本当においしい」と喜んでいただいたことがとても嬉しかったです。炊き出しを続ける中で避難されている方々とも顔見知りになり、日々頑張って復興に向かおうとする姿に逆に元気をいただきました。

今、公営の住宅にお住まいの皆さんと組合員が一緒に行っているのが、大根をはじめとした野菜作りです。農作業の経験を活かして組合員に植え方を教えてくださる方もいます。支えられるだけでなく世話をする側にもなり、生き生きとされています。そして、作物の実りを皆で喜び合える関係ができていないのかと思います。組合員から託していただいたカンパ金という善意が、様々な支援を支えてくださっています。

生命を守る

**温かい夕食を毎日準備しました
＜グリーンコープ生協ふくおか＞**

家を失くした方や被災した家の片づけに追われる方など、被災された方々は、不安で心細い毎日を過ごされていました。「温かいものが食べられたら」というささやかな望みを耳にしたグリーンコープは、福岡県朝倉市の避難所「らくゆう館」に朝食のパンや牛乳などをお届けし、7月25日から約2ヵ月間毎日夕食の炊き出しを行いました。9月からは甘木市の避難所「ピーポート甘木」での炊き出しも始めました。

カンパ金は炊き出し支援の材料費、資材費、ボランティアの交通費などに活用しました。

寄り添う

**「乙女の大根畑」で組合員と地域の方々が交流しています
＜グリーンコープ生協ふくおか＞**

支援継続中



住み慣れた場所から仮設住宅住まいとなった皆さんが小さな日常を取り戻すための支援として、苗やプランターなどの資材の提供を行いました。植物を育てることで家の外に出るようになり、花や野菜の栽培を介して仮設住宅に住む方同士の会話がはずみました。その後仮設住宅が解体され、公営の住宅へ引っ越された後も、近くのグリーンコープ産直青果生産者の畑を無償で借り、組合員と数名の女性たちによる大根作りが続いています。

収穫した大根は、お店やキープ&ショップなどで販売し、売り上げ金を後日お渡ししています。カンパ金は大根の種、資材費などに活用しています。

つながる

地域の再生

**「あさくら復興サミット」を
とおして地域づくりを
応援しています**

＜グリーンコープ生協ふくおか＞

支援継続中

発災から4年が経過し、その間朝倉地域で支援活動をしている多くの人や団体との出会いがありました。その出会いをつなぎ、発展させるための場として、「あさくら復興サミット」を継続して開催しています。



10以上の団体と個人が地域づくりのために取り組みたいことを出し合い、その声をもとにこれからの被災地にとって必要な支援をともに考えています。

カンパ金は災害支援団体の運営費、こどもまつりの開催費用などに活用しています。

**若い人たちが未来に向けて
朝倉を考える場になっています**

「あさくら復興サミット」メンバー
一般社団法人Camp 望月 文さん

一社)Campは災害支援活動、防災・減災のための講演会、耕作放棄地を活用した農園など、災害による課題について様々なプロジェクトをすすめています。土砂の掻き出しなど緊急時の支援をしていく中で、運営費の援助は大変ありがたく、安心して災害支援に取り組むことができました。

「あさくら復興サミット」が開催されることにより、活動を報告する場ができました。また、報告した活動についてアドバイスをもらい、次に活かせるようになりました。朝倉地域を復興したいという思いを持った団体の横のつながりも生まれました。災害支援をとおして、団結力、一体感、コミュニケーションづくりが大事なことが分かりました。朝倉という地域が、「災害が起きたけれど災害を経て強くなれた地域」になることを目指していきたいと思っています。



大雨に備え、土のう設置の支援をしている様子

寄り添う

**津久見市復興応援イベント
「応援します！津久見」を開催しました
＜グリーンコープ生協おおいた＞**

大分県では九州北部豪雨により日田市を中心に大きな被害を受けました。さらに、9月の台風18号で津久見市を中心に甚大な被害に見舞われました。

新年を安心して迎えるために、少しでも力になりたいと、2017年12月23日にイベントを開催。温かい豚汁などの炊き出しや、お菓子セットやお餅セットなどを準備しました。生活再生相談や、住宅改修相談コーナーも開設しました。イベントをとおして被害に遭われた多くの皆さんに、元気を届けることができました。



会場の津久見市営グラウンドには約300人が来場しました

**九州北部
豪雨災害**

被災地の方々の思いを聴き
「あさくら復興サミット」や住民組織との
つながりを活かした支援を続けています

2017年7月5日から6日にかけて福岡県南東部から大分県西部を襲った豪雨により、河川の氾濫や土砂崩れが起こり、甚大な被害が発生しました。グリーンコープは、発災翌日から組合員の安否確認をするとともに、各避難所や個人の要望に応じて食料や物資をお届けしました。継続的な支援をする中で、多くの人や団体との出会いがありました。2019年7月には、福岡県朝倉市の杷木地域コミュニティ連合会と、災害時における連携・支援協定を結び、つながりをよりいっそう深めています。

九州北部豪雨災害支援募金 会計報告
(2021年7月20日現在) (単位:円)

カンパ金	
組合員カンパ	124,344,659
他団体カンパ	3,235,779
カンパ金 集計	127,580,438
支援費	
被災地支援金	1,230,000
支援食材	4,830,185
支援物資	25,234,074
各種取組費用	7,296,833
支援者交通費	3,211,686
支援者宿泊費	3,481
施設費用	8,131,415
車両関係費用	6,460,762
諸経費	399,257
支援費 集計	56,797,693
残金	70,782,745

カンパ金の今後の使途

朝倉市志波小学校跡地での居場所づくりの準備をすすめています。フリースクールと連携した子どもの居場所、お店(キープ&ショップ)などを備え、災害時の支援拠点にしたいと考えています。

生命を守る 寄り添う 生産者にお見舞金を届け、食料支援に取り組みました(長野県)

発災直後、グリーンコープは衣類・生活必需品・食料などをトラックに積んで福岡から長野に向かい、浸水した自宅や倉庫の片付けに追われている産直りんご生産者「ハケタ会」や周辺地域の方々に、緊急支援物資を届けました。また、組合員から寄せられたカンパ金からお見舞金として、1000万円を届けました。九州からは、産直青果生産者が被災した仲間の支援に駆け付け、組合員やワーカーも現地に滞在し、手作りの温かい昼食を届けました。



食料や家電、重機などの物資支援、人的支援のための交通費や宿泊費、生産者へのお見舞金などにカンパ金を活用しました。



グリーンコープの調味料をハケタ会の生産者宅に届けました

同じ生産者だからこそできる支援に取り組み、辛さを分かち合いました



産直青果生産者(有)島原自然塾 会長 酒井 澄晴さん

被害に遭ったハケタ会の北澤会長(当時)とは、20年来の友人です。被害の重大さを知って、すぐにでも現場に向かおうと思いましたが、2017年の九州北部豪雨災害で、青果生産者の仲間とボランティアに入った経験があったので、きつと役に立てるという思いがありました。グリーンコープと連絡を取りながら出発の段取りをつけ、長期で支援に入る覚悟で現地に入りました。

まずは何をしてほしいのかを北澤さんに聞くと、「水に浸からなかったりんごも全部落としてくれ。組合員の皆さんに迷惑がからないように、赤沼地区のりんごは出荷しないと決めた」と言うのです。1年かけてようやく実ったものを廃棄する辛さは、生産者でないと分からないものがあります。本当に大変だったでしょう。重機を使つての土砂出しの作業は、春に芽を出す枝を折らないよう、気を付けながら慎重に行いました。

私たちに続いて九州各地から青果生産者が次々に現地に駆けつけ、支援に入りました。青果生産者グループの絆は強く、思いもよらない災害がいつ自分の身に起こるか分からないから、何かあった時には助け合おうと常日頃から話しています。

生産者の方々にお届けする食事を心を込めて作りました

支援現場では、生産者に食べてもらう昼食作りを任せられることになりました。約30人分作ることを想定して、調理器具などを揃え、メニューを考えました。野菜も食べてもらいたいと付け合わせも工夫しました。大変な思いで作業されている生産者の皆さんに温かい食事を届け、「おいしかった〜!」と喜んでもらえました。心を込めて作った甲斐がありました。



峰さん(写真右)とハケタ会の佐々木さんご夫妻

空いた時間には、支援物資をトラックに積んで、生産者の所や来てほしいと言われた所にお届けしました。ある生産者のお宅に行った時、高齢の方が家の中の土砂出しを、力が抜けたように、それでも黙々と作業されている姿を見て、胸の詰まる思いがしました。現地に行かないと分からないことがあるのだと思いました。

台風19号災害

被災した生産者に寄り添い、組合員、ワーカーズ、職員、生産者が力を合わせ、懸命に復旧作業を行いました

2019年10月に発生した台風19号は、東日本を中心に15都府県に及ぶ広範囲に被害をもたらしました。千曲川の氾濫によって、長野県の産直りんご生産者の多くの家屋やりんご園などが浸水するという大変な被害を受けました。

また、災害が広範囲にわたったため、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県、東京都の支援を必要とするところに、これまでの災害支援でつながった団体や連携するNPO団体を通じて、物資支援や炊き出し支援などを行いました。

台風19号災害支援募金 会計報告 (2021年7月20日現在) (単位:円)	
カンパ金	
組合員カンパ	75,593,810
他団体カンパ	1,128,328
カンパ金 集計	76,722,138
支援費	
被災地支援金	51,072,920
支援食料	218,899
支援物資	7,623,843
各種取組費用	291,526
支援者交通費	8,436,574
施設費用	300,000
車両関係費用	2,494,918
諸経費	220
支援費 集計	70,438,900
残金	6,283,238

カンパ金の今後の使途
長野市長沼地区での復旧作業の中で出会ったりんごの生産組合「ほんど童」とおとし、地域の復興のために必要な物資や機材、保育園や小学校の遊具などにカンパ金を活用していきます。

生命を守る 寄り添う これまでの災害支援の経験を活かし、最も必要なものを必要とされる場所に届けました<グリーンコープ生協さが>

支援継続中

さがでは、災害が発生した直後から組合員理事や職員が密に連絡を取り合い、カンパの呼びかけや支援に向けて動き始めました。組合員や職員自身も被災する中、発災数日後には活動できる組合員が避難所でおよそ100食分の炊き出しも行いました。

現在も、数人の方に見守りも兼ねてお弁当を届けています。避難所に設置した冷蔵庫や洗濯機などの家電製品やマットレス、避難された皆さんのための生活用品、炊き出しや被災者宅に届けるお弁当の食材などの費用にカンパ金を活用しました。

オールグリーンコープで支援に取り組みました

グリーンコープ生協さが 理事 小川 幸恵さん

避難所には、様々な地域からグリーンコープの組合員やワーカーズが駆けつけてくれました。これまで多くの組合員が人と人とのご縁やつながりを大切に活動してきたからこそ、このような広がりがあるのだということ、災害を経験したことによって実感することができました。

被災した方の中には障がいのある方もいらっしゃいましたが、避難所では福祉の手が届きにくい様子があり、とても気がかりでした。幸いその後支援を受けて元の生活に戻られたと聞いて安心しました。地域には福祉的な支援を必要とする方がたくさんいらっしゃるはずで、みんなが安心して暮らせるように、グリーンコープの地域福祉をもっと広げていきたいと感じました。



野菜をたっぷり使った温かい食事を作ってもらうと、組合員が避難所で炊き出しを続けました



浸水や油の流出による被害で台所が使えないお宅に、継続してお弁当を届けています

つながる 地域の再生 行政と連携し、災害に強い地域づくりに取り組んでいます <グリーンコープ生協さが>

支援継続中

2019年9月より、大町の呼びかけでグリーンコープをはじめ災害支援活動でつながった団体が定期的に集まり、被災した地域の復興について話し合いの場を持っています。2020年7月には支援団体の発案で防災DVDを作成して被災者に配布しました。



支援団体が地域で主催した復興イベントへの出店や提供した食材の費用として、カンパ金を活用しました。

2020年8月27日、グリーンコープ生協さがは、大町町と「災害時支援協定」を締結しました。この協定により、2021年8月豪雨災害では、速やかな支援活動につながりました

経験を活かした的確なアドバイスが、きめ細やかな支援につながりました

初めて経験する災害で情報が錯綜する中、グリーンコープには、これまでの様々な災害支援の経験から、必要なものや準備すべきことをアドバイスしてもらい、本当に助かりました。被災した町民からの要望は様々で、行政の立場では対応が難しい場合もありましたが、そのような時もグリーンコープに相談することで、きめ細やかな支援を行うことができました。

大町町役場 総務課(災害当時は、福祉課) 課長 岩瀬 重義さん
子育て・健康課 副課長 灰塚 重則さん

避難所での炊き出しなどに、グリーンコープの様々な地域の皆さんが来られたことには驚きました。炊き出しをしていた女性が「熊本地震で被災した時にグリーンコープに支援をもらったので、恩を返したい」と考え、今日は皆さんと一緒に炊き出しに参加させてもらいました」と涙ながらに話してくれたことが、とても印象に残っています。グリーンコープの皆さんが、災害支援に取り組まれるたびに、つながりが生まれているのだと感じました。

九州北部 大雨災害

行政と協力して、未永く安心して暮らせる地域づくりをめざしています

2019年8月27日から28日にかけて、九州北部を中心に記録的な大雨に見舞われました。佐賀県では家屋や田畑の浸水被害が相次ぎ、大町町一帯では鉄工所から大量の油が流出して住宅地に流れ込むなどの被害も発生しました。

避難所の開設と同時に、グリーンコープ生協さがが中心となり支援活動を開始。避難している方々のニーズに応じて、緊急物資支援や炊き出しなどを行いました。現在も行政や他の支援団体と連携し、災害に強い地域づくりをすすめています。

九州北部大雨災害支援募金 会計報告 (2021年7月20日現在) (単位:円)	
カンパ金	
組合員カンパ	37,544,882
他団体カンパ	1,460,484
カンパ金 集計	39,005,366
支援費	
支援食料	3,830,913
支援物資	5,023,738
各種取組費用	108,706
支援者交通費	1,057,462
被災地常駐スタッフ人件費	365,520
車両関係費用	1,682,050
諸経費	23,540
支援費 集計	12,091,929
残金	26,913,437

カンパ金の今後の使途
大町町で地域の拠点づくりがすすんでおり、建物の改装費用としてカンパ金を活用します。完成後は拠点を軸にした支援活動を広げていく予定です。

寄り添う 移動販売で買い物支援を行っています <グリーンコープ生協ひろしま> **支援継続中**

被災により地区の商店が閉店して買い物が困難になっていたことから、坂町役場より買い物支援の相談を受けました。グリーンコープ生協ひろしま理事会の「力になりたい」という思いと一致し、2018年8月から移動販売車の運行を始めました。ひろしま20周年時に導入した移動販売車「げんきくん号」が即戦力となりました。現在、県内2つの自治体から要請を受け、週2回、14ヵ所移動販売を行っています。

「げんきくん号」の燃料費にカンパ金を活用しています。

グリーンコープ生協ひろしま 東広島支部理事長 宮崎 祐子さん



大切なのは、そっと寄り添うこと

げんきくん号には組合員も同行しています。買い物のお手伝いをするだけではなく、傾聴カフェとしてげんきくん号の横にテントを立て、来られた方にお茶を出し、ほっと一息ついてもらえる雰囲気をつくりたいと考えました。生活必需品を入れた「生活応援セット」を渡すうちに、「グリーンコープさん、いろいろありがとう」という言葉をいただくようになりました。私は、同じ町内に住んでいるので、地域ならではの話ができただけかたのかもしれない。今は新型コロナウイルス感染症防止のため、お茶は出せませんが、話をしたり買い物のお手伝いをしています。

大切にしているのは、そっと寄り添うということです。買い物に来られた方の側にいて、お話ししたい様子があれば話すということを心がけています。3年経ってやっと日常の会話ができるようになったと感じています。

つながる 地域の再生 住民の皆さんが集える場づくりに取り組んでいます <グリーンコープ生協おかやま> **支援継続中**

グリーンコープ生協おかやまでは、長期にわたって支援活動を継続できるよう、コンテナハウスを利用した拠点づくりを倉敷市真備町ですすめました。住民の皆さんが集える場「おひさま広場」を、2020年2月に開所し、支援をとおして出会った3団体と一緒に運営しています。コンテナハウスの中には、コンロや冷蔵庫、流し台を設置。子どもが遊べるスペースもあります。

今年3月から農業支援「まび畑プロジェクト」にも取り組んでいます。おひさま広場からのつながりで畑を借りることができ、ボランティアで協力してくれる方の指導のもと、約40人の方が野菜作りを行っています。



「おひさま広場」建設のための初期費用(コンテナ・工事費用)と、借料料、キッチンスペースの備品や冷蔵庫、エアコンの購入にカンパ金を活用しています。また、「まび畑プロジェクト」の苗の費用や農業資材、活動費などにもカンパ金を活用しています。

いただいた恩を誰かのために返したい

グリーンコープ生協おかやま 理事長 飯村 美智子さん

おひさま広場の運営委員会主催で「おひさまマルシェ」を開催しています。おひさま広場を知ってもらおうという目的もありましたが、地域で楽しいことがあったらうれしいので、やろう!ということ。現在、15~20のお店が出店していて、グリーンコープ生協おかやまも出店しています。

私は、福島原発事故で長野県松本市に母子避難をした経験があります。本当にいろいろなことをしてもらいましたが、何もお礼を返せないうままでした。でも「どこかで誰かに返せばいい!」と言って、私もいつか誰かに自分が受けた恩を返したいという思いがありました。今、そんな思いで活動しています。

これから、「おひさま広場」を中心に活動を広げていき、キープ&ショップをつくるなど、たくさんの人が集まる楽しい場所にしていきたい、思いは広がっています。



西日本豪雨水害

「被災された方の力になりたい」。組合員の声をもとに、買い物支援や居場所づくりに取り組みんでいます

2018年7月6日から降り始めた記録的な豪雨で、西日本を中心に多くの地域で河川の氾濫や浸水被害、土砂災害が発生しました。グリーンコープは翌日から支援活動を開始し、組合員の安全確認を行い、避難所を訪問して水やタオル、食料など必要な支援物資を届けました。また、職員などを中心に在宅被災者宅の土砂出しを行い、寄せられた情報を頼りに組合員による炊き出しなどにも取り組みました。

避難所から出てみない仮設住宅に移れる方などに、「生活応援セット」を届けるとともに、生活再建に向けた支援にも取り組みました。

西日本豪雨水害支援募金 会計報告 (2021年7月20日現在) (単位:円)	
カンパ金	
組合員カンパ	87,824,216
他団体カンパ	14,119,701
他収入	3,738,323
カンパ金 集計	105,682,240
支援費	
支援食料	14,353,234
支援物資	17,622,256
各種取組費用	1,861,257
支援者交通費	4,535,294
支援者宿泊費	2,412,286
被災地常駐スタッフ人件費	7,942,131
施設費用	23,517,835
車両関係費用	3,544,611
諸経費	794,331
組合員対応経費	31,858
支援費 集計	76,615,093
残金	29,067,147

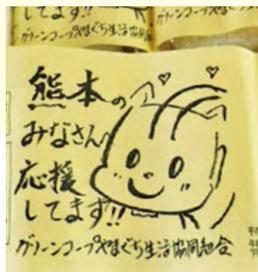
カンパ金の今後の使途
ひろしまでは、地域の有志で始められた坂町小戸浦地区での居場所づくりの基礎工事や機材の運搬費用などを支援予定。おかやまでは、引き続き農業支援をとおして、地域の皆さんのつながりづくりを支援していきます。

熊本地震

**災害支援センターを拠点に
ニーズに応じた支援を行い
見守り続けながら
地域のつながりをつくります**

2016年4月、熊本では震度7の大地震に2度も見舞われました。すぐさまオールグリーンコープでの支援の態勢を整えるとともに、熊本地震グリーンコープ災害支援センターを設置しました。多くの組合員が被災しながらも、必要な物資や避難先の情報をリアルタイムで災害支援センターに届け、それをもとに即支援につながるルートをつくりました。

避難所から仮設住宅、災害公営住宅などへと移転するたびに、築いてきた地域コミュニティが失われていきました。新たな地域づくりの取り組みとして、多世代が交流できる場の提供や、移動販売を兼ねた見守り訪問などを行っています。



各生協の組合員・ワーカーズが手作りのお弁当を熊本へ届けました

生命を守る オールグリーンコープでお弁当を作って届け くまもとの組合員が炊き出しを続けました

発災直後から、各生協の組合員やワーカーズなどが有志で手作りのお弁当やおにぎりを作り、車中泊の方や避難所などに届けました。被災された方が仮設住宅に入居したり自宅に戻られるまで、多くの方々に届け続けました。

益城町のグランメッセ熊本では7月末まで(移動して8月末まで)毎夕、グリーンコープ生協くまもとの組合員だけでなく他県のグリーンコープ組合員も応援に駆け付け、車中泊をしている方などへ炊き出しを続けました。

炊き出しやお弁当の食材、炊き出しの機材は、カンパ金をもとに調達しました。



くまもとの多くの組合員が、自ら被災しながらも支援活動に参加しました

グランメッセ熊本で炊き出し支援を受けた方に聞きました

食事はもちろん精神的にも助けられました 濱本 ゆう子さん

被災して家が半壊し、6月からグランメッセのトレーラーハウスで避難生活を送りました。行政から食事の支援がなく困っていたところ、グリーンコープが炊き出しをしていることを知り、「助かった!」と思いました。もともと組合員だったので、食べものには安心感がありました。炊き出しに携わっていた組合員をはじめ皆さん優しく、発達障がいのある息子もすぐに打ち解けたので、精神的にもとても助けられました。

組合員さんからのカンパ金が炊き出しに使われているのを知って、「顔も知らない人たちが応援してくれている、一人じゃない」と感じました。組合員の皆さん全員に、とても感謝しています。

寄り添う 生活に不安を抱える方への 家計相談支援を行いました

熊本県から委託を受けてグリーンコープが行ってきた家計相談支援事業のノウハウを活かし、被災された方が生活を立て直すための家計相談支援を行いました。ふくおか、さがの相談支援員も応援に駆けつけ、仮設住宅から災害公営住宅などへの入居後必要な家賃負担に備えるための家計相談や、生活再建のための低利での貸し付けも行いました。

また、協力弁護士による無料法律相談会も4回行いました。



相談員の交通費などに、カンパ金が活用されました。

家計相談支援の取り組みに、2016年11月、熊本県から感謝状をいただきました

買い物支援 支援継続中

「いくばい!ふれあい元気カー」



災害支援センターのスタッフが、被災されて買い物が困難な地域や災害公営住宅などにグリーンコープの商品を積んだ移動販売車を走らせています。買い物に来られる方向士で交流する場にもなっており、高齢者の見守り訪問も行っています。

つながる 地域の再生 「つながるカフェ」で 集える場をつくっています

支援継続中

在宅被災者やみなし仮設住宅にお住まいの方々の居場所づくりを目的に、「つながるカフェ」を益城町の「ましきスマイルいきいき館」(2020年1月までは飯野公民館)で開催。被災された方々の孤立防止や、コミュニティづくりを支援するため、心と体をリフレッシュして笑顔になれる場、仲間づくりの場を提供しています。

食材やワークショップの材料、ましきスマイルいきいき館の賃貸料の一部に、カンパ金が活用されています。

誰もが集えて、それぞれに楽しく 過ごせる居場所にしたい

グリーンコープ生協くまもと 理事長 高濱 千夏さん

みなし仮設住宅にお住まいの方や在宅被災者の方には支援が届きにくいので、引きこもって心理的にも孤立されることが心配でした。私たちがつながることで少しでも安心していただけたらと、サロン活動ができないかと考えました。

東日本大震災で被災された岩手県大船渡市では、地域の方によって誰もが集える居場所をつくってサロン活動やカフェの運営をされていることを知り、組合員で視察研修に行き、このような居場所を熊本にもつくりたいと話しました。

グランメッセの炊き出しに参加されていた方や、在宅で気になる方などを一軒一軒訪ねてお声かけし、月に1回「つながるカフェ」を開催することにしました。組合員も交代で参加して、来られた方々と交流したり調理して食事をふるまうなどしています。集まるたびに親しく打ちとけ合い、今はもうファミリーと言っていけるくらいの間柄になって、皆さん開催を楽しみにされています。現在は「ましきスマイルいきいき館」で、コロナ対策をしながら不定期で開催しています。また、地域の方々が集う場としても開放しています。今後ますます地域の皆さんが自由に集まって楽しめる場所になってほしいと思っています。



つながるカフェで思い思いに手仕事を楽しむ皆さん。子どもたちも一緒に楽しめる居場所になっています(2018年飯野公民館)



グランメッセ熊本で炊き出し支援を受けた濱本さん親子は、つながるカフェにも参加され、運営の手伝いもしてくれました。息子の凌さん(写真中央・現在17歳)は「つながるカフェで友達と会うことができたし、大人の人たちと話すのも楽しくて、リフレッシュできました。地震やその後のことなど、気持ちを分かち合える場所でした」と話してくれました(写真は2018年撮影)

熊本地震支援募金 会計報告

(2021年7月20日現在) (単位:円)

カンパ金	
組合員カンパ	214,844,924
他団体カンパ	51,710,712
他収入	26,311,309
カンパ金 集計	292,866,945
支援費	
支援食材	75,162,746
支援物資	16,902,188
各種取組費用	14,396,318
支援者交通費	4,502,994
支援者宿泊費	15,723,500
被災地常駐スタッフ人件費	99,346,268
施設費用	19,392,133
車両関係費用	19,253,681
諸経費	2,249,521
組合員対応経費	10,105,454
支援費 集計	277,034,803
残金	15,832,142

カンパ金の今後の用途

災害支援センターの活動はカンパ金に支えられています。買い物支援や高齢者の見守り訪問、つながるカフェの運営などを続け、安心して住める地域づくりをすすめていきます。

生命を守る 寄り添う

水が引くのを待って直ちに支援を開始しました

<グリーンコープ生協ふくおか>

支援継続中

発災当時、河川の水が内水氾濫を起こし、大牟田市の三川地区の地盤の低い地域が広範囲にわたって浸水しました。グリーンコープ生協ふくおかは、直ちに小学校や体育館など数カ所の避難所へタオルや支援物資を届けました。

発災直後のお弁当や食料、飲料水などの支援物資にカンパ金を活用しました。また、衣類を無料配布や安価で販売したファイバーリサイクル市の費用をカンパ金で補いました。



万々に備えて、つながりを大切にしていきたい

グリーンコープ生協ふくおか 南地域理事長 砥上 叔子さん

着のみ着のまま避難された方たちのために、8月に無料のファイバーリサイクル市を開催した際は、その時季にすぐ着れるものを準備しました。

自宅が水没してしまった高齢の組合員さんから、家の片付けを手伝ってもらえないかと連絡がありました。以前訪問した際に、困ったことがあれば何でもお手伝いしますと伝えていたので、それを覚えていてくださったのだと思います。支援をしていく中で感じたのは、人とのつながりや輪がとても大事だということ。今の時代、人とのつながりが希薄になっていて、隣にどんな人が住んでいるのか分かりません。災害の時は、それがほころびとして現れます。普段から声かけを続けて、もし何か起きた時は、いつでも協力できるようにしたいと考えています。

生命を守る 寄り添う

九州北部豪雨や台風の災害の支援経験が活かされました

<グリーンコープ生協おおいた>

支援継続中

日田市では、発災直後に主要道路の陥没や土砂崩れが発生し、多くの家屋が浸水しました。グリーンコープ生協おおいたでは、食料品、トイレトペーパー、履物などを、避難所や被災された方のご自宅へ届けました。生活用品が流されてしまった方が多かったため、ファイバーリサイクルセンターの衣類も届けました。



地域のボランティアの方々と職員が、被災されたお宅の土砂出しを行いました

食材や生活用品の購入、災害復旧で使用したダンプカーのレンタル代にカンパ金を活用しています。

これからも被災された方に寄り添った支援を続けます

グリーンコープ生協おおいた 日田センター長 神崎 朋宏さん

玖珠郡九重町で12世帯が床上浸水し、土砂出しのための人材が不足しているという情報が入り、グリーンコープ生協おおいたでボランティアを募りました。組合員、職員ら約10人で交代しながら約半年間、土砂出し作業を続けました。被災された方の笑顔を見ると、疲れは吹き飛びました。

災害から1年が経過し、被災された方が希望されることも変わってきました。みなし仮設住宅に入られた方への行政の支援は2年で終わります。その後の住まいの不安など、困りごとの相談が増えており、みなし仮設住宅の方の所へは定期的に訪問したり電話をしています。日田は高齢の方が多く、孤独を感じたり、気持ちが落ち込んだりする方もいらっしゃるため、見守り支援を行っています。今後は、引っ越しや災害処分品を運ぶ支援を続けていきます。

寄り添う

キッチンカーと元気カーで地域に元気を届けています

<グリーンコープ生協くまもと>

支援継続中

被災された皆さんに温かい食事を届けたいという思いで、組合員から寄せられたカンパ金を活用したキッチンカーが、今年の1月に完成しました。現在グリーンコープ生協くまもとの「ワーカーズコレクティブ・ヒトハレ(旧キープ&ショップ人吉 手とてとて)」が運営を担っています。

カンパ金は、食材の購入やガソリン代に活用しています。



被災した地域同士のつながりも生まれています

グリーンコープ生協くまもと 理事長 高濱 千夏さん

熊本地震、令和2年7月豪雨災害、コロナ禍と、「熊本は三重苦」と言われています。熊本地震で被災された方々が災害公営住宅へ移転される時期がコロナ禍と重なった所もあり、見守りができずもどかしい思いをしています。孤立されている方もいるのではと心配しています。

熊本地震の支援でつながった熊本市や益城町などの皆さんから、令和2年7月豪雨災害で被災した人吉地域の皆さんのことを思ってたくさんの応援をいただきました。被災地同士がつながり、支え合う関係も生まれています。

人と人がつながるカフェができたらいいなと考えています

ワーカーズコレクティブ・ヒトハレ 代表 御園 豊子さん

元気カーでの移動販売で市街地から離れたところにある仮設住宅や、不便な地域のご高齢の方のもとへ、見守りを兼ねて訪問しています。皆さん毎回の訪問を楽しみにされている様子です。コロナ禍でキッチンカーの活動ができない時期もありましたが、10月に活動を再開しました。

この1年間で物質的なことはだいぶ解消されてきたと思いますが、落ち着いてくると寂しさや不安を感じる方が増えているように思います。これからは、地域のコミュニティづくりが必要だと感じています。コロナ禍が落ち着いたら人が集えるカフェができたらいいなと考えています。

令和2年7月 豪雨災害

コロナ禍でも、これまでの経験を活かすことで、現地のグリーンコープを中心に支援を継続しています

2020年7月4日未明に熊本県南部を襲った豪雨に続き、九州北部も記録的豪雨に見舞われ、広域にわたる被害を受けました。グリーンコープは、発災直後から熊本県の球磨川流域、大分県日田市、福岡県大牟田市を中心に避難所や組合員宅を訪問し、支援物資を届けました。現在も、被災された方への買い物支援や見守り、仮設住宅やみなし仮設住宅から自宅への引っ越し支援などに継続して取り組んでいます。

令和2年7月豪雨災害支援募金 会計報告

(2021年7月20日現在)

(単位:円)

カンパ金	
組合員カンパ	114,028,049
他団体カンパ	7,275,141
他収入	4,611,245
カンパ金 集計	125,914,435
支援費	
被災地支援金	27,744,220
支援食材	13,588,141
支援物資	24,025,016
各種取組費用	59,705
支援者交通費	10,099,612
支援者宿泊費	953,048
被災地常駐スタッフ人件費	5,177,677
施設費用	4,931,202
車両関係費用	3,780,607
諸経費	287,174
支援費 集計	90,646,402
残金	35,268,033

カンパ金の今後の使途

おおいたでは、見守りを兼ねた食料品のお届けや、ボランティア団体へダンブカーの貸与を継続します。くまもとは、キープ&ショップ人吉の再建、元気カー・キッチンカーの活動、家屋の片付けなどの支援を継続していきます。

一人ひとりの思いが集まって 大きな力に



グリーンコープ共同体
代表理事 熊野 千恵美さん

毎週寄せられるカンパ金は組合員の気持ちそのものです。何か力になりたいという、たくさんの人の思いが集まることで、支援活動を継続するための大きな力になっています。多くの組合員から思いを寄せていただいていることが本当にうれしく、感謝の気持ちでいっぱいです。カンパへのご協力本当にありがとうございます。

災害が起きるたびに、たくさんの組合員やワーカーズ、職員がそれぞれの持てる力を結集し、被災地のために動きます。その中で、組合員は実際に現場に行って自分の目で見て感じたことを様々な場で発信していきます。そのことが多くの共感やカンパにつながっているのではないかと思います。

被災した地域では、再び災害が発生する心配をしながらも、多くの方が住み慣れた地域に戻ることを望まれます。人とのつながりや自分らしく暮らせる場所の存在は、それほどに何ものにも代え難い大切なものなのだと思います。だからこそ私たちは、地域の中でみんなが集える場所をつくったり、サロン活動でつながったり、急性期の支援だけではできないことを続けています。

災害が起きるのは悲しいことですが、8つの支援活動をとおして、今たくさんの人たちとつながることができ、万一の時に助け合える関係が各地で生まれています。一人でも多くの方が笑顔になれるまで、明日に希望を持ってまた頑張ろうと思っていたるように、これからも一緒に歩いていくことができたらと思います。

グリーンコープでは、発災後直ちに被害の状況について情報収集を行い、被害が発生した県のグリーンコープを中心に、これまでの災害支援の経験やつながりを活かし、避難所などでの支援活動を開始。併せて組合員に緊急支援のカンパを呼びかけました。



9月22日と24日、被災された皆さんに届けるお弁当をつくりました(佐賀県大町町にて)

コロナ禍で思うように動けなくても 被災された方々に思いを寄せて

グリーンコープ生協さが
理事長 柳川 晶子さん

コロナ禍でボランティア活動が厳しく規制されたため、現地に入っただけの支援は職員を中心に行い、組合員はしばらく動けない状況が続きました。被災した地域の組合員から寄せられる情報を共有し、職員から現地の様子を聞くたびに、2年前の支援活動で出会った方々の顔が浮かんで来て居ても立っても居られず、もどかしい思いがありました。

組合員としてできることを考え、避難所に届けるグリーンコープのお弁当にスープ類やメッセージを添えるなど、被災された方々に少しでもほっとしていただけるように工夫しました。9月下旬には常任理事会メンバーが大町町に入ることができ、避難所の皆さんに手作りのお弁当をお届けすることができました。

様々な支援活動を継続できるのも、組合員から寄せていただいているカンパ金があるからこそです。今回の災害でも、発生直後からたくさんの組合員がカンパに協力いただいたおかげで、迅速に動くことができています。

支援継続中

支援活動で培ったネットワークを 駆使して地域を支えています



2021年8月豪雨災害
支援募金 会計報告
(2021年10月5日現在)

カタログGREEN22~28号で
組合員にカンパを呼びかけました

カンパ金 集計 16,308,100円

組合員から寄せられるカンパ金が 支援活動を支えています

これからも支援を継続するために、
ご協力をお願いします

熊本地震支援募金	002	一口 200円	003	一口 500円
西日本豪雨水害支援募金	006	一口 200円	007	一口 500円
2019九州北部大雨災害支援募金	008	一口 200円	009	一口 500円
台風19号災害支援募金	010	一口 200円	011	一口 500円
令和2年7月豪雨災害支援募金	012	一口 200円	013	一口 500円

何口でも申し込めます

■共同購入申込書の申込番号の
数量欄に口数を記入してください。

※【例】申込番号002の数量欄に「2」と記入された場合は、400円のカンパとして受け付けさせていただきます。

グリーンコープのホームページで
支援のようすを報告しています

<https://www.greencoop.or.jp/>

グリーンコープ災害支援

検索

支援のようすは
こちらから



産直青果生産者を支えるための

グリーンコープ産直青果生産者 災害時支援基金

自然災害で生産者が被害を受けた時の
再建費用として活用する基金です



ここ数年、各地で頻繁に発生している大雨や豪雪、猛暑や干ばつなどの自然災害は、グリーンコープとの約束を守り、組合員のために安心・安全な野菜や果物を生産している産直生産者にとっても非常に大きな脅威となっています。生産者が長年培ってきた経験や創意工夫をもとに事前準備しても追いつかず、想定をはるかに超える被害を受けています。

「グリーンコープ産直青果生産者災害時支援基金」を設けています。

2016年1月末に九州を含む西日本一帯の地域が数十年に一度の大寒波と積雪に見舞われ、多くの産直青果生産者が生産物や施設などに甚大な被害を受けた際に、組合員から寄せられたカンパ金の残金を基金として積み立てることにしました。以降、様々な自然災害によって生産者が被害を受けた時に、施設や建物の再建費用など、営農を継続するための費用としてお届けしています。

これまでの基金の用途
(2021年9月20日現在)

- 2016年1月 大寒波・積雪被害 (九州と中国地方の2生産者) 総額 2,952,000円
- 2016年6月 大雨被害 (九州の20生産者) 総額 3,080,000円
- 2016年8月 台風10号被害 (北海道の8生産者) 総額 10,079,000円
- 2017年7月・9月 台風3号・18号 九州北部豪雨災害第1弾 (九州の10生産者) 総額 4,780,000円
- 台風3号・18号 九州北部豪雨災害第2弾 (九州の8生産者) 総額 4,704,000円
- 2021年5月 九州大雨災害 (熊本県の2生産者、大分県の1生産者) 総額 1,335,000円